

透析患者の QOL 向上のために ～処方・服薬提案に向けた医薬連携の実践～

(茨城県) 総合メディカル株式会社 そうごう薬局柳町店

○山田 託也、菊池大介

【目的】

そうごう薬局柳町店の主応需先は、透析医療を中心としたクリニックであり、約80名の透析患者が当薬局に来局している。透析患者のなかには食事制限・水分管理を指示されている人が多く、特に水分量の増減は血圧の変動など日々の体調変化に影響しQOLに直結する重要な要素である。当然のことながら、合併症管理のためには多種多様な薬剤を服用する必要があり、服薬における水分摂取量を増やさないようにするための関与は、保険薬局としての役割として重要である。

以前より医療機関との連携を進めていたが、患者情報の提供にとどまらない連携を行ないたいと感じていた。そこで、今回われわれは、服薬と水分摂取の関係に着目し患者情報の収集・ケアを行なうことによって、より効果的な医薬連携が実践できるのではないかと考え取り組みを行ったので報告する。

【方法】

1、医療機関からの情報収集

- ①医師との面会により処方意図の把握
- ②看護師を通じプロフィールシートによる情報共有やカルテ内容・検査値の確認

2、患者からの情報収集

患者に服薬時の飲水量等のアンケート実施

3、患者ケアの実施と処方提案

服薬と水分摂取に着目した服薬情報の提供・提案の検討

【結果】

水分摂取に対する医師の治療方針を知ることにより、患者個人の状況を把握する必要があることが分かった。さらに、プロフィールシートや、カルテの確認を行なうことによって、患者の現状把握が可能となり、水分摂取を減らすための用法変更及びOD錠への薬剤変更等の提案を医師に行なうことができた。さらに、患者に対して水分摂取量を減らすための服用方法をアドバイスすることができた。

【考察】

服薬と水分摂取に着目し、情報収集をすることによって、処方変更の提案など具体的なケアを実践することができた。このことは、情報提供にとどまらない医薬連携が実践できたことを示唆すると考えられる。今後も、薬剤特性や服用方法に関する知識を持つ薬剤師だからこそ気がつき・ケアできることはないかを考え、さらに多くの患者のQOL向上に努めていきたい。

【キーワード】

透析、処方提案、情報共有、水分摂取量、QOL 向上